

明石と神戸 活性化の仕掛け人

タコ・子午線・玉子焼き……
地元資産を「明石学」に昇華

日本各地で盛んな「当地検定」中でも、ネーミングのユニークさで群を抜いているのが、兵庫県明石市の「明石・タコ検定」です。全国的に有名な明石タコや明石鯛などを中心とした、魚に関する生態・食文化・歴史など100問が出題され、合否が判定されるも

の。今年で第7回を迎える同検定の発足に協力したのが、経済学部角村正博教授です。

古くから地元を中心とした「地域学」分野の研究・教育に力を入れた本学で、角村教授の研究テーマも、地域経済の活性化を目指した「観光まちづくり」。地元市民や企業・行政と協力し、ゼミなどの学生も巻き込んだまちづくりの実践に取り組んでいます。

「1990年代以降、日本経済は約20年間にわたり低迷しています。この状況を打破する方策の一つが『観光』です。日本の定住人口を増やすことは難しいですが、観光によって交流人口を増やせば経済を活性化できます」と

角村教授。

そのためにまず大切なのが、「地元ならではの観光資源を、継続的なブランドにすること」。たとえば明石市は日本標準時（東経135度）上にある「子午線の町」として同

時に、有名な「魚の棚商店街」に代表される「魚の町」でもあります。名物の玉子焼き（明石焼き）や源氏物語（明石の巻）ゆかりの地とされる善楽寺戒光院など観光資源も豊富。「それらをどう有機的につなぎ、観光まちづくりに反映させていくか。私たちはそれら一連の取り組みを『明石学』と名づけ、研究・教育を進めています」。

「コーチング」の手法を まちづくりに取り入れて

角村教授は「明石学」に次いで、神戸市を活性化するための「神戸学」にも着手しています。その際、「明石市、神戸市ともに、まちづくりの重要なキーワードは人づくり」だと断言。まちづくりに関わっている人たちは発想が面白く、自身の利害を超えて活動する個性の持ち主が多いということです。

ですが「問題は、その顔ぶれが常に同じで広がりがなく、まちづくりの情熱が、若い人たちに受け継がれていくことが大事です」。そこで今、角村教授が強い関心



左から公式テキストブック、たこカレー、たこ検定あめ。
明石・タコ検定関連のグッズもさまざま

明石・タコ検定

2006年3月にスタートし、A5判の公式テキストも発行。明石・タコ検定委員会と中心市街地まちづくり推進会議が主催。



法学部	経済学部	経営学部	人文学部	国際コミュニケーション学部	栄養学部	薬学部
有瀬キャンパス 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 Tel.078-974-1551(代)	ポートアイランドキャンパス 〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3 Tel.078-974-1551(代)	長田キャンパス(法科大学院) 〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3 Tel.078-691-4888(代)				

バックナンバーは本学ホームページ(デジタル広報誌)でご覧下さい。

<http://www.kobegakuin.ac.jp/>